シラヒゲウニの放流技術開発事業（要約）

島袋新功、蔵下環、中村博幸＊1、當銘美奈子＊2

1．目的及び内容

シラヒゲウニの放流適正種苗及び放流技術の開発を行い、資源添加によるウニ漁業の発展を図ることを目的とする。

本事業は、国庫補助事業「放流技術開発事業・定着性種グループ(平成７年度～11年度)」を受け、放流適正種苗開発課題を県栽培漁業センターが、放流技術開発、基礎技術開発調査、放流環境要因調査課題を本場が分担実施する。なお、本事業は平成９年度に中間報告、平成11年度に最終報告をまとめる計画である。

2．結果

1）種苗放流結果

殻径：平均（Max～Min）

回次	年／月／日	個数	殻径mm	放流場所
①	95／11／ 1	5,052	16.0（32.3～3.5）	与那城村宮城島地先
②	95／12／13	28,157	9.8（26.4～2.2）	今帰仁村古宇利島地先
③	96／ 1／12	2,440	10.6（21.7～2.1）	与那城村宮城島地先
	計	35,649	10.7（32.3～2.1）	①と③は同じ放流場所

2）追跡調査

①回次・宮城島地先の放流シラヒゲウニは、1996年２月29日で、移動範囲が約50m内、殻径５～６㎝に成長した。天然ウニは７～８㎝と大きく、放流ウニとは殻径で区別できた。

②、③回次の放流シラヒゲウニは約１ヶ月後の調査で出現しなかった。原因として、放流時期、サイズ、健苗性などによる流出、死亡などが考えられた。

＊1 非常勤職員、現：八重山支場。＊2 非常勤職員。